

教訓
繪入

閤路指南車
天



門 9
號 3896

阿州 和田耕齋翁著
浪華 松川半山畫

早稻田大學圖書館
昭和27.6.25
藏書

教訓 繪入
閤路指南車 やちのーまんぐるま
全部 二冊

浪速書肆 積玉圃梓



題 和田耕齋暗路指
南車卷

人情莫苟求安逸生
惡心來善是忘諸見
丁寧一編旨要教子

閤路指南車

序

書

市此知方

天保癸卯之秋

松川山輝卿



開路指南車上卷

阿州 和田耕齋 述

やちとては提灯のうぐさ提灯とて不迷ふ世の中
 秋乃中々及のやちとて子あけ中々けつたふあそふいぢる
 もあそふね測り沈み貪睡寝るふあそふいぢる鬼あが附
 もあそふね測り沈み貪睡寝るふあそふいぢる鬼あが附
 孫子乃末もぞ報たあそふ服乃何う何うもあそふいぢる
 秋と日が火の焼く運入と天ハ疾より心あつてやまこ
 く不火と思ふ神道場及佛堂とふ大提灯とあび

おろしひきてしらん人々なる世第一の事なり
大地うゝくわくをよこらうがやうな威力で中
括てらるるも叶ふねえ来たりふげおろしめい
りの也天ふ道さう様方へ扱ひ中うとくい
あれども大地にうづつと居る處へいふほど
悲が憂ふふけきこる中うもてしらんをせざる役
人学者の出来のこつ中うな言ひある提焼乃扱ひ
中うとつてまへ人われども修むつしねふ作ら
ゆ焼大なり提焼ふつてやうなうく中うと提焼

ふぶくしてもらうて金銀やーぐるも中うも
提焼乃扱ひしついで中うふ焼牛とせざる人
あつても我れは城や事や様のづつと付てあつた
車い知まかけるそれと自分提焼が悪うとて
やういふ教しとくくくくくくくくくくくく
成てはしあてあるお給こらうがやうな力あつた
し、他人へいふて是中いけれどもあつたの子孫に
てて其れねえあゝねえ一大事これがまゝ天下泰平又教
成就乃涕祈禱せしめやうとて考合し

四らうト先世まふといふにうやう小限の登戸表
 ていふがふ河原らうて速いれるものトやあいが
 け歌乃やうがーんくふふトや才一金銀乃功徳が
 うらうにあらうてあのみトや爰をうしく念ふと
 貫るぬと燈火がうてはまよ金銀此の命とたうと
 むらう唱てうらうとやうらうけり人の縁候と
 救ふ宝世界百するを乃宝の月あまの宝
 米麦重銀乃宝いふ人を知る乃の宝るゝおふふ
 我因へ了うてあふれはるゝ合ぬといふ氣が馴色

ねゆりうとやうに歌う人乃縁候へそつらで
 せいかつへ死のふがもう乃かへゆども角ても了と
 ともなぬもどとふみ教法久がる重小成りける
 金銀小住していふく実く世界乃固人ぞや一教に
 おるすれや金銀はて多れ人をうらうのトや金銀の
 光ゆと丸ぶーかつぶすのトや中く提燈下さるゝあま
 かういふなるうらう事せいとて重銀持へてあまいも
 せんとの又かりふとて博奕打うらうおやうのけう海
 ぬく甘いりの喰うはるせずふがうといふて抱んで

富貴役全盛

梅里かよひけ



言うとて物一つもねやうにぬこのいまい自清落
 貧乏のふりので是ふとぬる宝でも何もう道二えき
 も作のを人る乃ありやい天トやそのゆりやいつい一む
 けありやと違ひどふてもかゝても末更の銭が振る
 ちやでとぞぬけてやうとがはるで宝も敷も痛
 りあしと物喰ふ忌ものさば後銀さくば小妻及秋
 やうとくはう物さきふさきとて下るりのと何
 ぞや物どれでうさる中うに御恩と微塵やども思
 へばおもひで接びつめての山経還いそれいおもやの門

づつてもあはるさるさへそとくそくくりがさぬ日
 日るるふふぬもつて神佛信心が火のどやと安んじ
 形ふと信心とんぬ親音揃乃御内へ生てやむつても
 ありなれ請合があへう細くは大師様の御店へあり
 うまうとてばうかけてもゆりやの御判めてある
 あさればもうこれには振るる中うふむとあるげく
 くりと出ける皆提燈なりやうとてあやうでかへす
 りこんどのまでもい意地の源つる教さまでこのトや
 あへうり教されこのひう歌やでめてやうあとおか

しりしり吟味しつとあつたさる八月お人乃知るふく
やん御とハみ経つておしり身が新くもたつてし
物乃まどの関にほみ寸窓が何とともやみするけ家の
内も一度ふつと意にひるまふまふもまふ日れぬ
おれ親殺しの大つめの盗人のしつの中する大罪人ハ
これの中く一代此業でい出来まひ是るそ前世乃業で
うあふ是おはらつちの義周ハいづきりのごらつて
せよ皆提燈ふし乃仲る中ハおの所持乃又地が分る
おあつて提燈ねめしとて皆あつて消てはしういなる

大方が日しり新橋乃横つこのトや扱又正正路し
極貧窮乃人もあるものトやうかろつて横に
正正道トやして貧乏せまひのあつて又殿様と
御家中様との差別ハあるものけきどもあれハ同様
とらやてららしこれきぬとそりや正正乃貧乏ハ
天より貧乏役との役成と作付れしとらつて
西序の中せか中一の役人ハお持の役人中よりお
ある年もくねつて代ハ貧乏役ハ勤下されお若き
お仕合とおひきまふハ業を物乃お仕合あつて天乃

文盲と族とも心縁と破動若無悪く致しおやとてある邊に
ま同小むとあり振るおんりてもちか安命なるより更
不致号しお知れと借人を悔る牛の乃より一割へ
裏表とおぬぶ負之役と様一め引もうとて金銀ハ皆
己が金と振んがるくお知れ重銀の光とてささて料
係てかおや付る者也

とてうと忠臣義の四段目乃中うにらうと代り切
後さあをひに糖原皮端金桶計り焼鹽まで皆目
附てめ持て踊やう足一歩でと移る中う何くく
とてうと忠臣義の四段目乃中うにらうと代り切

思へばおれを屋の店でもせつと乃おやまけ中うとて
あうりして振るおしるどやの事主の心がけりのお
あつと也結原をまでがに抱よりつて仕すつとあつ
たつとどやかういふと持ておれとてめつとさうの
しるどがけり代とつぶすりので換せぬかうお知れ
まわりおしとてせのバ内のお金へつとぬとあつて
らよけまども金銀も細くふるぬといふは夏のゆや
天うりしとてふるぬとておれうとてがらかけの振
負之役の四方に振かるるは文銀役と様むまひぞや



天乃上使
富貴後
召上るる図



西も何ぞの報ひで今更之役を遂て居るであらふ
文更役柿方乃山世結でござるがうで皮肉中が著して
来さるるがうといふと思ふてはなぬとその更之の上天の
沸河で大病はるるがうとて若くやと役を養うと
若くや何れも悔む事はいふといふ世界といふと世
けぞ小生もさる者不役のいのちのいふに折れ
時人役も何れを食役と勤めて橋乃下小席もあり一生
漂泊役もあり何れに何れなる事時より更之役を
ちるふんぬ乃大なるがあらふ面々八面顔のるや人の麦

飯る時分は新炊ぐらうでひか何れがやと毛で後
一をい半清液をさるるがうとておハ七又もぬるみそも同ド
旧利益家とて懐いど錦も縋もあるド切徳面露通と
おハ文殿樓閣もさるる蔬茹もゆふト以魚と我より
とていべ小居るは奢の心いさるる消滅をうてると
何れも更之役が著るるぬ時よと云はしとさるるがあら
更之役乃山連中るるるるドやがあらふ文更ト
とて何れも清があらふ金かりも一掃更いもけさるるが
あい何れもさるるの事はいふ思ふ人知れぬとあり

中ぞありふすもあぜといふにまづいなり時、
 おが
 ゑんぐべし〜ばら〜むく思つて居るゐがある留師と
 あちや年う
 わは乃茶をいつてひて長いの書生に後しくも地盤
 えんさう
 固断の上の痛も業稼ハ一又も出来れば此稼ごうり
 てこ
 おあ〜おがわ〜斗それいむのもあく以留師も勿論
 りえ
 何ともいひ合せぬけれども世界中がを食うあ〜以留
 しや
 者の夜肉中か何しも喰ふ稼でいつも業の元銀が何る
 もろぞそふしてこれバ留者とする人一人もある理屈
 じやあが以留師も結構〜してなるこれハ先金持

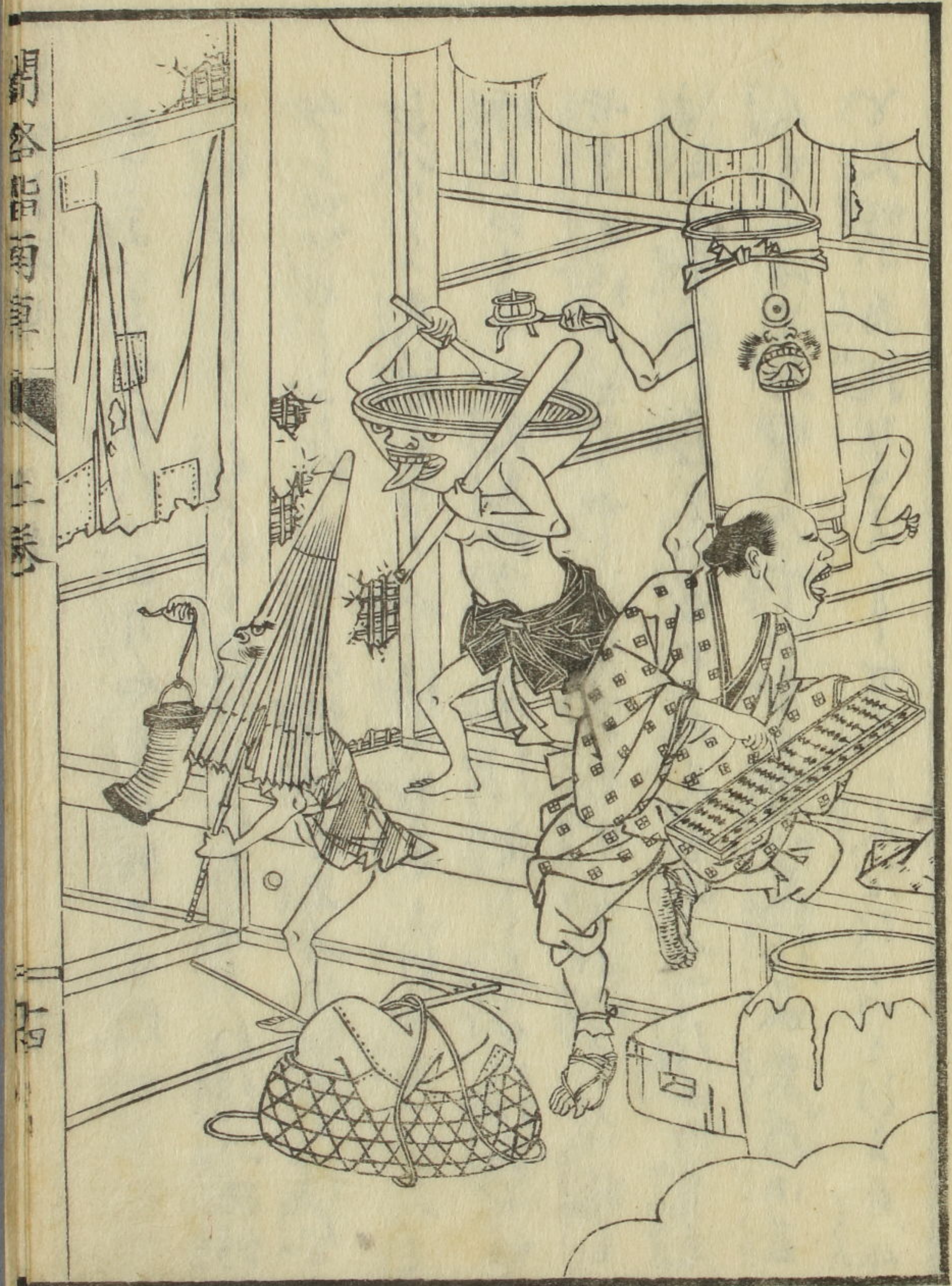
思わが仲人して大喧嘩のふ結びする大掛あつていふや
 あいふ夫トやふらつて更なる昔よせたとありやうぬ乃
 仕通しに任して置とがふい又中やうがうらう大怪せ
 トやとてあつてつるものやあい知るもの根限
 大切小働うぬと天禄家業れい玉が持んで居るるふ縁の
 りでもころろとこけぬとあふ磯う腐るうすうと
 中う玉乃性なれて疲干もどつと又のまゐり出處の
 中なるものが破きと柄の長い浴衣着りつて出て来て
 も縁とあつてつるいびきうきうあつてがうと

あつていひなりうらうぬと更なる乃役替が出来ま
 せぬに盡で働いてれ更なるハねていふ思ふ縁の代ハ
 更なる役替作付とまうに金銀かるのハ更なる人乃あ
 かつて思ふ思ふまね中うがうらうも利銀付ハ更
 ね換への思換トやぞう時出来ずばどよどおある時
 小思ふ思ふ更なる又貸主ハおとがと拂ねとておま
 や一年付とがふいそへ思ふ思ふものぞ高がみ女や指
 なぐふかむ縁の方代で借のあらまでいふとがうい
 どもとらと拂いといふいども拂いれぬ是が實の天余

眞走廻てやうなそれく借る庭にお来々々々々々々々
つむ金割でおもへてそれあされ天守眞走とあで々々
眞走と日ぬういふ日るりの枕一返来に枕丸が
あつてふかーまねをきける自落眞走はうま
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
それがいふくもあつてそれおくくくくくくくく
にかゝぬむとやけきども更い月利の是くぬのとや眞
走役と大連でござるくくくくくくくくくくくく
をたんとぬくくあつて寝のと役とやりのくくくく

智恵がひいていぬぬぬくくくくくくくくくく
ふ連乃のいぬけねるものいふておくくくくくく
ぬくも借るくぬひくくくくくくくくくくくく
代へくくくくくくくくくくくくくくくくくく
又子なる人い親父乃借いぬぬぬくくくくくく
かつて大抵眞走連乃の事とやあつてやうくく
親なる人い代ふあつてぬかりいあやんとあされな自
乃代は拂がぬぬぬ時い子借い生るくくくくく
トやぬ眞走役のぬ役留作付くくくくくくくく
今度此ぬかぬ

富貴役
退場の
図



おてまへあせらればい月や糸の時でも綴一もので
お勤るまゝさゝむがゆる也つごのあゝね 綿へ縋る
ぐゝをゆーやれとあゝい 結構と思つてもさうれん
あゝゝ 失強もるー 金程もねえうけるゑでふと
作さむとさると又えの山段へ山門度ー大なる此坊おとや
廿更之段乃ちありやうがぬあ中よふさうーバ施も
仕女く貪欲もねえい富中の人もさうてみるの貪之
人もさうてみる乃ち生て居る中ハ天福家業乃ち玉
と大切おねれさうもせ天ハ人さづづうひよふ成

ねるゆゑさうあり

乃ち福と心算をねれを不足なり 貧乏情もさる者う
悔中のぞくさうさうもやつさう悔にてる 女房子情
これやうくめてさき天道掃よりハ自分かかーといぢふ
あふうーとや命がたても喰ひのがあうらうとあふ
て居るけきども中へ命と含物とを別くして下され
ていあいのらうそこれ中なるものトや中乃焼ん事と
何んあんが命トやがふふ情とわうつけてあのか喰物
是れトや大小ぢふあんどけーハ情がうけてあるさう

えんぐらう
三月はよ小い虫が出る来乃葉何くるは来くに
大さあるあで二三日づと中より中つて一ツも
くげふあつし中ぐにぬてけをふるそぞざん
のふろねがわげる歳交もそのまうにくればあ動れ
けをつめ^{ぶち}その食料ハ昔々来乃葉一おて天食
れりのり外ハ毒あるをしやわしも棄るば又蜂は
つも^{あそ}む出る^でる^こあー只此の^{ふか}蟻^{あひ}乃肉をやとり
つめて^ふ終一の^あ食^きものもやりて一生がる^う安^あ勉^べ不^ふ喰^くさ^お以^ま禮^れ
トヤとてなぐくしくうこの糸口とも也此因して

まつゝとどめ戸を閉くせむお中うにのこ中うとて
 湯乃中ニ黄くれ長く山若芳の切乃末ハ姓乃女ハ織
 あひ紫の物とちる絹ハとて撮れどその以石持その介
 徳ハ廣きと書て計られる事トやると又蘭乃中
 かへ様とぬて出て替く交合して世様として振ら
 たりと世乃小用るハあつと切成名遂て方返くその
 道ハ成つて以成る始末もとふ人も何の勸ぶるおせし
 一のり御公家様乃生ま替りのとてハ乃持が御公家
 撮れやうとて一のりとて撮その替後か才年あやう

とくさるゝのハ名眼おゑうゝて身おふくふおゑるゝのれ
中とがくづゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
に遠いあゝ事ゝゝや
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

閑路指南車上巻終



